

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

全体概要

I 概要

令和4年度は、3年以上に亘るコロナ禍により大きな影響を受けた社会経済情勢が、徐々に回復に向かう年であった。わが国においても、年度後半には行動制限や水際対策の緩和を受け、インバウンド需要の復活など観光を中心に回復の動きが本格化した。

中止・縮小が続いていた祭りや地域行事なども再開が相次ぎ、コロナ以前に戻りつつある中で、京都では、関係者が連携し、観光客の過度の集中やマナー問題など従来の課題解決を図りながら回復を目指しており、当財団も京都府・京都市・関係各機関と協力しつつ、MICEや修学旅行誘致に努め、観光・飲食業界の回復を積極的に支援した。

また、年度内の文化庁京都移転に向けて、古典の日推進事業等を通じ、文化庁や関係者との連携を強め、文化と観光・経済の好循環創出に努めた。

全体として、文化庁京都移転や大阪・関西万博を契機として関係機関との連携を強め、従来の課題克服に努めながら、ウィズコロナ社会における文化・観光・MICEの更なる飛躍に向けての取組を進めた年であった。

以下重点施策ごとに令和4年度の取組状況をまとめた。

II 4つの重点施策別の取組状況

1 古典の日推進事業の充実

古典の日法制化10周年を記念し「古典の日フォーラム」「朗読コンテスト」を連日開催し、国民文化祭の開催地沖縄からの参加を得るなど全国展開に向けた取組を推進した。

また、ドナルド・キーン生誕100年記念「街かど古典カフェ」事業において、山極壽一氏とキーン氏ご子息の対談を実施するなど、様々な手法により古典の日の普及啓発に努めた。

さらに、第2回目となる「古典の日文化基金賞」授賞式を、顕彰委員会名誉総裁である彬子女王殿下ご臨席の下、9月2日に開催。今年度から、次世代の担い手を顕彰する「古典の日文化基金未来賞」を新たに設け、3団体が受賞し

た。併せて「古典の日宣言10周年記念特別表彰」も行った。

なお、これら永年の活動に対し、古典の日推進委員会山本壮太前ゼネラルプロデューサーに「京都夢実現プラン推進特別賞」「令和4年度地域文化功労者」「京都市文化芸術有功賞」の3賞が授与された。

2 MICE・国際観光の回復と発展

コロナ禍からの回復とその後の発展に向け、国内外の情報収集に努めるとともに、コロナ以前の観光課題解決を目指す「京都観光モラル」に沿い観光客の分散化を図るため、京都府・京都市等の助成金を活用して、広域へのMICE、エクスカージョンや修学旅行誘致に努めた。

海外プロモーション活動として、3年ぶりにバルセロナで現地開催となった世界最大規模のMICE商談会「IBTM World 2022」及びメルボルンで開催されたアジア太平洋地区最大規模のMICE商談会「AIM 2023」に出展した。また、国連が主催する「インターネット・ガバナンス・フォーラム2023」の京都誘致に向けた視察対応、コロナ禍で中止や延期となった案件のフォローに加え、オンラインによる主催者への働きかけ、新規案件の誘致も積極的に展開した。

水際対策が緩和されたこと等に伴い、対面での国際会議開催や企業によるMI案件、展示会の開催が増加。第19回STSフォーラム、京都スマートシティエキスポ2022への運営協力をはじめ、京都ならではの支援に努め、関係者との連携も強化した。

3 文化・観光クロスオーバーの推進

文化と観光を融合する視点から注力してきた、MICE会場として社寺・文化財や美術館等を活用する「ユニークベニュー」について、新たな施設の充実・開拓や企業の交流会、展示商談会場にあたっての提案や仲介、視察旅行のサポート等に努めるとともに、「京都らしいMICE開催支援補助制度」の運用や貸し出し制度等を通じ、伝統産業品の活用と需要拡大を図った。

京都迎賓館支援においては、参観者が回復する中、記念品販売所移転に対応し、利便性の向上と販売管理体制の改善に努め、新たな売り場に相応しい商品の追加なども行った。また、動画作成によるPRを行うとともに11月以降は賓客への接遇支援も再開した。

社寺文化財の特別公開情報については、昨年に引き続き、QRコードを掲載した「四季彩京都」発行により、最新情報を提供した。

なお、MICE による京都の伝統文化・環境保全への貢献を目指す「京都MICE基金」の運用を開始。10 件の国内外の会議会場、17か所の施設に募金箱を設置するなど、基金の積み上げに努めた。

4 関係団体との連携推進・組織強化

「古典の日フォーラム」を文化庁と共催。国民文化祭開催県である沖縄から「組踊」を招待しフォーラム内で上演、朗読コンテストや文化基金賞の参加・対象者を広く全国から募るなど、古典の日の推進を通じた全国の文化振興への貢献を目指した。

また、「文化庁京都移転プラットフォーム」に参画し、文化庁京都移転の機運醸成に向け周知・啓発に努めるとともに、大阪・関西万博に向けたオール京都の取組に積極的に参加し、府・市・経済団体との連携を強化した。

さらに、京都市観光協会と連携しキャンペーン等の事務局を担うとともに、ホームページ等での発信を強化。中止が続いていた「会員の集い」を令和5年1月、4年ぶりに開催し、会員相互の交流を図った。

賛助会員については、会費の軽減措置の継続及び個別の事情を踏まえた丁寧な対応に努め、経済の回復と相まって会員数・口数がわずかではあるが増加し、歯止めをかけることが出来た。

部 門 別 概 要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

（1）「古典の日」普及・定着のための事業

「古典の日に関する法律」制定 10 周年と文化庁の京都移転を記念し、古典の日推進委員会事業の要となる「古典の日フォーラム」及び「古典の日朗読コンテスト」を連日にわたって開催。テーマ曲「古典の日燦讚」を大谷祥子さん（古典の日推進委員会アドバイザー）の作曲で制作、各イベントで披露した。

①「古典の日フォーラム2022 ー琉球王朝の華 組踊ー」

文化庁と初めて共催となった今回のフォーラムでは、古典の日推進委員会設立当初から目標に描いてきた「古典の日」の全国展開の取り組みとして、全国各地で開催する国民文化祭との連携を図り、今年度の開催地、沖縄県の協力で、伝統芸能「組踊」（国指定重要無形文化財）を紹介した他、沖縄県知事からメッセージをいただいた。アンケートの結果、参加者の81%が琉球舞踊及び組踊を初めて鑑賞し、87%から「感動した、よかった」との回答があり、各地に根差す古典文化を知っていただく機会となった。

◇開催日 10月31日（月） 14時～17時

◇会 場 京都劇場

◇参加者 692名（感染防止対策（マスク等）を徹底した上で3年ぶりに座席制限なく開催）

◇概要

・テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」

演奏 大谷祥子と六条院楽坊

大谷祥子（箏）饗庭凱山（尺八）祝丸（太鼓・鳴り物）

藤林由里（ピアノ）平山美萌（ヴァイオリン）

徳安芽里（チェロ）

宣言 山原優喜（浪速高等学校）

第13回古典の日朗読コンテスト「京都府知事賞」受賞者



- 開催者挨拶
村田純一（古典の日推進委員会会長）
都倉俊一（文化庁長官）



- 来賓祝辞
伊吹文明（元衆議院議員） 祝電読み上げ
勝目康（衆議院議員）
玉城デニー（沖縄県知事） 収録映像放映



- 琉球王朝の華 組踊
第1部 琉球舞踊
[老人踊]老人老女 [若衆踊]若衆こてい節
[二才踊]下り口説 [女踊]天川



第2部 組踊「執心鐘入」



② 「第14回古典の日朗読コンテスト」

「人は心の種～和歌～」をテーマに『古今和歌集』『平家物語』『徒然草』の一部範囲を課題作品とし、全国から573名（一般253名、中学生175名、高校生145名）から応募があった。第1次・2次審査を通過した中学・高校生部門から6名、一般部門から9名が最終審査会に出場した。

◆フォーラム「古典の世界を読む2022」公開最終審査会と表彰式

- ◇開催日 11月1日（火） 13時～16時5分
- ◇会場 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ
- ◇参加者 300名

審査が行なわれている間、『伊勢物語』や『万葉集』など古典文学の翻訳を手がけるピーター・マクミランさんに「連想の帝国―日本文学における連想の働き―」と題し講演いただいた。



また、本コンテストの受賞者のうち、中学・高校生部門】大賞及び京都府高等学校文化連盟会長賞受賞者が、全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露した。



③ ドナルド・キーン生誕100年記念「街かど古典カフェ」 「キーンさんが愛した京都」

ドナルド・キーン氏は、古典の日推進よびかけ人として「古典の日」制定や日本の古典文化の普及のためご尽力いただいた。ドナルド・キーン氏と親交のあった山極壽一さんに講演いただいた後、ご子息のキーン誠己氏と京都での思い出を語っていただいた。

◇開催日 9月14日(水) 13時30分～15時30分

◇会場 京都文化博物館 別館ホール

◇参加者 192名

◇概要

- ・講演「キーンさんが愛した日本の文化と情緒」
講師 山極壽一（総合地球環境学研究所所長・前京都大学総長）
- ・朗読「自由闊達で知的な一生」（『ドナルド・キーン追悼文集 ひとり灯の下にて』から故芳賀徹氏追悼録）
村上秀行（第5回古典の日朗読コンテスト大賞受賞者）
- ・対談「キーンさん、思い出話」
山極壽一×キーン誠己（一般財団法人ドナルド・キーン記念財団理事長・浄瑠璃三味線奏者）
聞き手 山本壯太（古典の日推進委員会アドバイザー）



(2) 情報発信・広報活動等

・「古典の日」ホームページ

「イベントカレンダー」に於いて、催し物等に関する情報の提供を行うなど全国に向けて「古典の日」の情報を発信した。コロナによるイベント開催制限が緩和されるに伴い、少しずつ開催に係る問い合わせが寄せられるようになってきた。今後も古典の普及のために更なる発信に努める。

・古典の日絵巻第十一巻「古典芸能 干支絵巻～舞台上活躍する動物たち～」 鳥獣戯画絵巻から着想して、古典芸能（能、狂言、歌舞伎、文楽など）で活躍する動物たちを干支12種にちなんで連載。

執筆 葛西聖司（古典芸能解説者）

画 諫山宝樹（日本画家）

2022年[4月]	虎	寅	とら
[5月]	猿	申	サル
[6月]	丑	牛	～うしなわれぬ英雄たち～
[7月]	辰	龍	たつ
[8月]	子	鼠	ねずみ
[9月]	己	み	蛇
[10月]	戌	いぬ	犬
[11月]	酉	とり	鳥
[12月]	亥	イノシシ	猪
2023年[1月]	兔	うさぎ	卯
[2月]	午	うま	馬
[3月]	未	ひつじ	羊



・ラジオ NIKKEI「朗読アプリ ページのない読書会～古典の世界を読む～」

朗読コンテストの優秀作品からテーマを決めて偶数月の最終土曜日に放送

第1回放送（4/30） 『竹取物語』 『伊勢物語』

第2回放送（6/25） 『枕草子』

第3回放送（8/27） 『源氏物語』

第4回放送（10/29） 『方丈記』 『堤中納言物語』 『平家物語』

第5回放送（12/31） 『徒然草』 『伊曾保物語』

第6回放送（2/25） 『おくのほそ道』 『雨月物語』 『今昔物語』

(3) 共催事業、後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数

◇公益財団法人有斐斎弘道館から

「京菓子展『手のひらの自然—枕草子』2022」（共催事業）
日本三大随筆の一つ『枕草子』をとりあげ、そこに描かれた言葉（情景）から誕生する京菓子のデザイン公募事業。作品の中（一般応募）から「古典の日推進委員会特別賞」を授与している。

- ・共催申請件数：1件
- ・後援申請件数：38件
- ・ロゴ・シンボルマーク申請件数：15件（令和5年3月末現在）

(4) 「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

- ・ホームページアクセス数：20,448件
（令和4年4月1日～令和5年3月31日現在）

2 古典の日文化基金賞事業

日本の古典文化の研究、普及、啓発活動等に貢献した個人、法人、団体を顕彰し、古典の日の推進に寄与することを目的として設立した「古典の日文化基金賞」第2回授賞式を9月2日に実施した。「文学・思想」は、共同受賞として2団体。「伝統芸能・音楽」「美術・生活文化」は各1件。次世代の日本文化を担う若者たちを顕彰するため新たに設けた特別賞「古典の日文化基金未来賞」は、3団体に賞を贈呈した。

※候補者総数96件（自薦・他薦43件、事務局選考及び候補者情報調査会委員推薦53件）

◆第2回「古典の日文化基金賞」授賞式

◇開催日 9月2日（金）13時～15時35分

◇会場 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

・第2回受賞者

【文学・思想】NPO法人知里森舎

（一社）札幌大学ウレシパクラブ

【伝統芸能・音楽】淡路人形座

【美術・生活文化】クリストフ・マルケ

【古典の日文化基金未来賞】宇治っ子朗読劇団☆Genji

京都府立鳥羽高等学校披露研究部

津屋崎臨海学校実行委員会

【古典の日制定10周年記念特別表彰】東儀秀樹氏・東儀典親氏 親子



第2回「古典の日文化基金賞」授賞式 令和4年9月2日(金)
於 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

◇概要

- ・テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」

演奏 大谷祥子と六条院楽坊

大谷祥子、西原梨沙、大谷掬波（箏）、饗庭凱山（尺八）、祝丸（鳴り物）、
藤林由里（ピアノ）、平山美萌（ヴァイオリン）、徳安芽里（チェロ）

宣言 宇治っ子朗読劇団☆Genji 鳥内咲良 吉川輝竜



- ・おことば 彬子女王殿下（古典の日文化基金賞顕彰委員会名誉総裁）



- 主催者挨拶 村田純一（古典の日文化基金賞顕彰委員会会長）
- 来賓祝辞 都倉俊一（文化庁長官）
- 授賞式
それぞれの活動の紹介の後、賞状と盾、副賞を授与した。
- 講評 臈谷壽（古典の日文化基金賞選考委員会副委員長）
- 座談会「つなぐ」～井上八千代さん、安寿子さんをお迎えして～
コーディネーター 葛西聖司（古典芸能解説者・元 NHK アナウンサー）



地域文化に関する活動を通じてその振興に功績があったとして、古典の日推進委員会アドバイザー山本壯太に対し、京都夢実現プラン推進特別賞、令和4年度地域文化功労者、京都市文化芸術有功賞（写真）の3つの表彰がありました。



3 京都迎賓館支援事業

京都の伝統技能の粋を集めて建設された京都迎賓館で行われる外国賓客の接遇や参観事業の支援を通して、京都の文化の伝統技能やおもてなしの文化を普及する事業である。

① 外国賓客のおもてなし

令和4年11月 ドイツ連邦共和国大統領

12月 モンゴル国大統領

令和5年 3月 ルーマニア大統領

アンゴラ共和国大統領

② 京都迎賓館PR動画<第二弾>の作成・公開

昨年度の「京料理」（瓢亭14代目当主・高橋英一氏）に引き続き、今年度は「華道」をテーマとする動画を作成し、都末生流六世家元の大津光章先生に京都迎賓館における生け花の魅力やおもてなしなどについてお話いただいた。作成した動画は、本財団のホームページのほか、京都迎賓館公式YouTubeチャンネルなどで3月28日に公開した。

ア 公開時期

令和5年3月28日

イ 動画内容

・テーマ

華道

・内容

○京都迎賓館の紹介

○京都迎賓館における生け花の魅力やおもてなしなどについて、大津光章先生に対するインタビュー

③ もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における賓客接遇の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の継承・発展のためいけばな協会への支援を行った。

また、迎賓館の賓客接遇に際して、京都府立堂本印象美術館などのご協力により、地元美術工芸品の借用を行った。

④ 京都迎賓館一般公開への支援事業

京都観光・文化情報コーナーを設置し、府、市、商工会議所等の資料を配布した。

⑤ 特別企画「京都迎賓館文化サロン」への企画協力

京都迎賓館を会場に、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に京都迎賓館にゆかりのある講師による講演等及びプレミアムなガイドツアーを体験できる特別企画「京都迎賓館文化サロン」について、引き続き、企画協力を行った。

◇第7回「綴れ織物」

- ・開催日
令和4年12月10日（土）
- ・参加者
120名
- ・内容
 - 「藤の間」の壁面装飾「麗花」の制作に携わった明石文雄氏による講演〈藤の間〉
 - 川島織物文化館が収蔵する貴重な作品の展示〈藤の間〉
 - 首脳会談などが行われる通常非公開の「水明の間」を含む館内ガイドツアー

4 京都創生推進フォーラム事業

京都市からの委託を受け「京都創生（歴史都市・京都の魅力に磨きをかけ、世界へ発信していく取組）」の意義を周知するため、会員に向けた情報発信やホームページの管理・運営などを実施した。

5 情報紙「四季彩京都」の発行

- ・発行回数 年2回
- ・部 数 春・夏号 50,000部
秋・冬号 50,000部
- ・内 容 社寺・文化財特別公開情報

Ⅱ 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）京都 MICE 基金の運用

国際会議など MICE による地域貢献促進のため、京都府・京都市などの協力の下創設した「京都 MICE 基金」の運用を行った。

本年度、10件の国際・国内会議の会場や、市内17か所のホテル・MICE 施設に募金箱を設置するなど、寄付を募った。令和4年度も、上半期は水際対策が継続されており、MICE への参加者数が限られている中、目標の500万円には届かなかったものの、これまで、1,124,803 円の寄付を頂いている。

本基金の運用を通じて、京都の多彩な文化・芸術や豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及び SDGs 達成に寄与する取り組みへの支援・貢献を行う。



（2）プロモーション事業

○ 海外プロモーション活動

- ① 3年ぶりにバルセロナで現地開催となった、世界最大規模のMICE商談会である、IBTM World 2022に、11月28日～30日、京都ブースとして国立京都国際会館とザ・プリンス京都宝ヶ池と共同出展した。本年は、世界中から3,500名を超える招待バイヤー（案件保有者）が参加し、京都ブースでは101件の商談を行った。ヨーロッパや北米のみならず、南米や東南アジアからも多くのバイヤーが来場し、京都ブースではユニークベニューやSDGsに関連するアクティビティーを紹介、京都の伝統産業製品をギブアウェイとして商談バイヤーに渡し、伝統産業のPRも行った。
- ② オーストラリア・メルボルンにおいて、2月13日～15日、アジア太平洋地区最大規模のMICE商談会である、AIME 2023に出展した。本年は世界から400名を超える招待バイヤーが集い、京都ブースでは、合計35件の商談を2日間にかけて実施した。ア



アジアからの招待バイヤーが多く、京都の新ホテルの開業に関する情報や、ユニークベニュー、文化体験等に関する紹介を行った。また、バイヤー全員に対するプレゼンテーションを実施し、コロナ後のMICE需要回復に努めた。

○ 国内プロモーション活動

国連が主催する、「インターネット・ガバナンス・フォーラム2023」の京都誘致に向け、総務省、京都府・京都市・国立京都国際会館と連携し、国連視察対応等を9月に実施。12月に京都開催が決定・発表された。

また、コロナ禍の影響により、多くの誘致中案件では誘致活動が中断されていたが、主催者訪問、オンライン会議等で連絡を行い、支援を継続。ICCA登録会議の中で、開催地募集をかけている案件（学会事務局）の国内主催者または国内学会事務局235か所に対して連絡を行い、新規案件として国際会議2件の誘致を進めた。

(3) 開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第19回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)]

公開シンポジウム 2022年10月1日 オンライン開催

歓迎レセプション 2022年10月3日

ウェスティン都ホテル京都

京都エクスカージョン 2022年10月3日 14名参加

② 京都スマートシティエキスポ2022への運営協力

けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)等において、2022年10月に開催された京都スマートシティエキスポ2022について、準備委員会や運営協議会、事業者選定会議など積極的に京都府担当課と連携するとともに、開催後方支援を行った。

③ MI案件・展示会(E)の開催支援

京都の企業や組織が主催する多くのMICEについて京都らしい開催を支援した。

2022年5月および7月に開催された2件のハイブランドの展示商談会では、



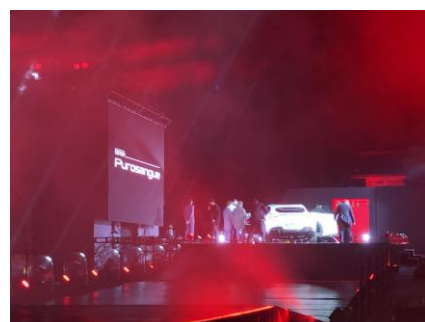
会場となる神社仏閣を当財団より提案し、採用された。また、京うちわなどオリジナルの伝統産業製品の制作など、伝統産業の利用促進に貢献いただいた。

2022年7月に開催された不動産会社の会議では、懇親会での京都らしい演出として芸妓・舞妓や京小町踊り子隊を提案。「京都らしいMICE 開催支援補助制度」を活用し、コロナ禍で活動の場が減少した花街等へ貢献した。

7月には、昨年につき、東京大学公共政策大学院の35名が京都を視察。旧小学校の跡地活用や京町家の見学を通じて京都観光の現状を学んだ。また、意見交換の会場として、当財団が提案した旧邸御室を利用し、登録有形文化財の良い活用事例となった。



7月および10月には、大覚寺にて外資系企業の表彰パーティーと国際会議に伴うレセプションをそれぞれ開催。感染防止対策を行い、コロナ禍で実施された屋外パーティーの良い参考事例となった。



また、11月に仁和寺で開催された外資系自動車メーカーの新車発表会の開催にあたり、文化財の特別利用許可について主催者と行政との仲介を担い、成功裏に終了した。いずれも文化財の活用につながる機会を創出することができた。

④ オフサイト・レセプション等の企画・提案

(公社)京都市観光協会や賛助会員事業者と連携しながら、開催地ならではのユニークな施設・会場(オフサイト・レセプション)の企画・提案を行った。白龍園や法輪寺など新たな施設との連携が強化された。

(4) 各種支援制度の運用状況等

① 助成金

(7) 大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用（京都市）

[申請案件（2022年度申請(認定)分）]

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
第41回国際燃焼シンポジウム	1,700名	2026年度	400
国際触媒会議	2,500名	2028年度	300

[2022年度交付案件]

会議名	参加者	開催日	認定額 (万円)
第26回国際膵臓学会・第53回日本膵臓学会合同大会	1,100名	2022年7月7日~7月9日	300
第16回世界脳神経血管内治療学会	1,400名	2022年8月21日~8月25日	300
第13回世界核医学会	1,112名	2022年9月7日~9月11日	400
CG Kyoto 2022	568名	2022年10月5日~10月8日	250
第29回国際高血圧学会	4,000名	2022年10月12日~10月16日	300
The 2022 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems	3,000名	2022年10月23日~10月25日	400

※開催日順

(イ)京都市 MICE 開催支援助成金の活用（京都市）

利用件数：28件 支援金額：5,000,000円

(ロ)「京都らしい MICE 開催支援補助制度」の活用（京都市）

利用件数：29件（うち伝統産業製品 17件）

支援金額：13,000,000円

（うち伝統産業製品支援：8,841,549円）

(ハ)「京の修学旅行3密防止対策等支援事業」の活用（京都府）

利用件数：1,202件 支援金額：198,650,000円

(ニ)「京都府 MICE 開催支援助成制度」の活用（京都府）

利用件数：7件 支援金額：878,500円

（コンベンション：1件 240,000円

エクスカージョン：6件 638,500円）

(カ) MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度の活用

利用件数：5 件

② その他の支援サービス

(ア) 京都コンベンション・パス(地下鉄・市バス特別乗車券)の発行

利用件数：1 件 発行金額：525,000 円

(イ) 京都イメージバンクの活用

利用件数：29 件

(ロ) 公開シンポジウム等広報支援制度

利用件数：1 件

(ハ) 京都開催 PR 用バナー貸出制度

利用件数：3 件

(ニ) プロモーション DVD の貸出・提供

利用件数：2 件

(ホ) 京都市 MICE デスティネーション PR 映像の貸出・提供

利用件数：12 件

(ヘ) 京都ストックフッターライブラリ映像の貸出・提供

利用件数：16 件

(コ) 各種広報印刷物等の提供

利用件数：26 件 (京都観光案内地図(日英併記) ほか)

(5) 広報宣伝事業

① メールマガジン(京都観光 MICE ニュースレター)の発行

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せ等で接触する国内外のミーティングプランナー、MICE 主催者に対し、定期的に京都の観光 MICE 関連情報を発信することにより、京都での MICE 開催を意識させ、京都への MICE 誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

② ホームページによる京都における MICE 関連情報の発信

国内外の MICE 主催者・参加者に対し、MICE 開催都市「京都」の情報発信を行うため、世界中の国際会議や国際学会の主催者や事業者、加えて京都市内の大学関係者の皆様の利便性向上を図った。

(6) MICE 関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE 関連情報の収集に努めた。

・令和5年3月1日に、有識者・MICE 関連事業者・MICE 主催者等と、京都市 MICE 会議を開催した。このほか、8 月には MICE 実務者同士との会議も実施した。

② 京都大学との協力による国際会議推進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」(2015 年 8 月締結)に基づき、京都大学と国際会議の推進に関する協議等を継続して実施している。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合等、様々な機会を捉えて、支援施策の PR を行うとともに情報収集に努めている。

③ 京都府警との連携

府警本部警備部と当財団の間で 2015 年 3 月に締結した「京都をテロから守る連携協定」に基づき、安心して参加できる国際会議都市・京都のステータスを維持するため情報交換・情報発信を継続して実施している。

④ 統計調査・発行

6月、国際会議統計「2021 京都で開催された国際会議」発行

⑤ 環境に配慮した MICE 開催（特に国際会議）にかかる調査

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会と連携し、「脱炭素」に焦点を当て、国内外の先進事例を把握し、国際会議開催時における会場を中心とした CO2 排出量の推計、カーボン・オフセットに向けた取組の在り方など、京都が目指すべき環境に配慮した国際会議像を構築するにあたっての予備調査を実施した。

(7) その他

公益社団法人京都市観光協会と連携し、以下の事業にあたり、事務局業務を担った。

- ① 京都「にち・とま」キャンペーン ～日曜日に泊まってお得に過ごそう～
8月21日～10月末までの稼働率が低下する日曜日等の宿泊観光を促進し、幅広い市内での需要喚起につなげるキャンペーンを実施。本事業の事務局を担った。



(キャンペーンロゴ)

② 京都レストランウィンタースペシャル 2023

京都市・京都市観光協会・当財団等が参画し、京都を代表する料亭やレストラン、ホテルなど、冬ならではの期間限定メニューを特別価格で提供する同事業を令和5年2月1日～3月27日まで実施。当財団は事務局業務の一部を担った。

京都を代表する料亭やレストラン、ホテルなど153店舗が参加し、多くのお客様に冬の京都の食を楽しんでいただいた。



(記者会見の様子／公式ホームページ)

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

（1）海外情報拠点管理運営事業（京都市委託事業）

世界6都市（ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北）において情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向等の情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光のPR活動等を実施した。

（2）京都市域内統計収集・分析強化

京都市域のホテル116施設、旅館29施設の協力を得て、国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、データ月報として発表した。また、日別の稼働率調査や、数カ月先までの稼働率予測、施設分類別の集計手法の開発にも取り組んだ。さらに、世界最大のホテルデータサービス提供会社、STRとの連携のもと、客室平均単価（ADR）等の情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。

（3）多言語ウェブサイトの運用事業（京都市補助事業）

外国人観光客向けに情報発信しているウェブサイト「Kyoto City Official Travel Guide」において、新型コロナウイルス感染症や、京都観光モラル、混雑可視化事業、直近のイベント予定などの情報発信を強化した。

（4）ソーシャルネットワークの運用事業（京都市補助事業）

英語 Facebook 公式アカウント「Visit Kyoto」や Instagram 公式アカウント「visit_kyoto」、中国の SNS「Weibo（ウェイボー）」の京都観光公式アカウントにおいて、京都情報の発信を行った。

（5）海外メディア取材誘致・露出強化事業（京都市委託事業）

海外有カメディア（雑誌、テレビ、ウェブサイト等）の取材受入について、オンラインと訪日による取材を交えて実施し、メディアへの効果的な露出を図った。実施にあたっては、海外トレンドなどを勘案し、最新の京都情報やサステナブル、ウェルネスといった切り口を意識したほか、分散化を推進するため、周辺地域への誘導を意識した。

支援件数：37件54媒体

(6) 旅行博・商談会事業

国内外で開催されている旅行商談会については、パンデミック以降初の対面による参加を行い、デスティネーションとしての京都のPRを行うとともに、多くの顧客を有する海外の有力旅行会社関係者に対し、市内の旅行事業者等に関する情報提供を行うなど、海外から京都への旅行商品造成の拡充及びネットワーク構築を図った。

2022年9月	ILTM APAC (シンガポール)
2022年9月	VJTM (東京)
2022年10月	Japan Luxury Showcase (オンライン)
2022年12月	ILTM Cannes (フランス・カンヌ)
2023年3月	ITB Berlin (ドイツ・ベルリン)

(7) 京都市認定通訳ガイド育成事業 (京都市委託・補助事業)

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト」を対象としたスキルアップ研修等を実施した。また、認定から5年目を迎えた第2期生に対し、更新試験を実施した。

認定登録ガイド数：170名 (令和5年3月31日時点)

(8) 旅館活性化支援事業 (京都市補助事業)

宿泊施設の主に若手従業員を対象に、京都の文化、接遇の基礎知識を学習し、勤務する宿泊施設でのサービス向上につなげるため、研修会を実施している。

時期：令和4年12月～令和5年1月

内容：ビジネスマナー、クレーム対応、能楽体験、京都三大祭 等

参加者数：181名



(9) インバウンド向けコンテンツ造成支援事業

令和3年11月に京都市観光協会が京都信用金庫と締結した連携協定に基づき、インバウンド向け観光コンテンツ造成支援プログラム「インバウンドイノベーション京都」を立ち上げ、参画事業者の募集を行った。

48件の申し込みのうち7件を採択し、有識者や在住外国人によるモニターツアー等による支援を実施した。

また、インバウンドをテーマにした業界交流イベント「京都インバウンドカフェ」を4回にわたり開催し、事業者同士のネットワークづくりを促進しつつ、コンテンツ造成支援プログラムとの連携を図った。

(10) 多言語電話通訳サービス及び翻訳サービス

令和4年10月の入国制限緩和による外国人観光客の京都来訪に備え、同月から、通訳が必要な外国人のお客様対応に使用いただける電話通訳サービス及び商品説明やPOP等の作成時に使用可能な翻訳サービスを開始した。

3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業

関係団体と定期的に情報交換を行い、これまでの宇治茶プレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んできたネットワークの維持に努めた。

また、文化庁移転を契機とし、令和5年1月14日に開催された、「日本茶の魅力シンポジウム」（主催：和食文化学会、京都府、（公社）京都府茶業会議所）の運営に協力した。

(2) アジアゴルフツーリズムコンベンション ポストファムトリップ

令和5年3月14日～16日まで宮崎にて開催された、アジアゴルフツーリズムコンベンション、ならびに、同17日より20日まで実施された京都でのポストファムトリップに際し、京都府や府内市町、京都府観光連盟、京都市観光協会、森の京都DMO等と、実行委員会を設立した。

当財団は実行委員会の事務局を担い、一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会や国際ゴルフツアーオペレーター協会（IAGTO）、京都府内の関係団体・法人などと密に連携し、宮崎でのコンベンションへの参加、ポストファムトリップを実施し、成功裡に終了した。

Ⅲ その他の事業（公益目的事業）

1 会報誌「京都文化交流コンベンションビューロー通信」の発行

賛助会員向けを主眼として、当財団の活動状況と有益な情報等を掲載

ア 仕様	A4版、4ページ（オールカラー）
イ 作成部数	900部
ウ 発行回数	年4回発行（4月・7月・10月・1月）
エ 配布先	賛助会員・関係団体 他

2 関係団体との連携等

（1）文化庁京都移転に関するオール京都の取組

京都府・京都市・経済団体等オール京都で立ち上げた、文化庁京都移転の機運醸成等を図る推進母体である「文化庁京都移転プラットフォーム」に参画し、古典の日推進事業のチラシ等や「ビューロー通信」への文化庁京都移転ロゴマークの使用やポスター掲出等の取組を実施した。

また、令和4年5月21日に岸田首相が、令和5年3月27日から文化庁が京都で業務を開始することを表明したことに伴い、これまで以上に京都が一体となって文化庁の京都移転を盛り上げるため、令和4年6月27日に「文化庁京都移転プラットフォーム総会」が開催された。当財団からは、村田理事長が出席し、「古典の日フォーラム」の文化庁との共催等を通して、「古典の日に関する法律」に基づく「古典の日」が広く周知され、古典への関心と理解を深めることの意義を全国民に力強くアピールすることへの期待を表明した。



3年ぶりに開催された時代祭においても、賛助会員の皆様の御協力を得て、ビューローとして参画し、「令和5年3月27日 文化庁京都へ」の横断幕を掲げ、文化庁京都移転を広く周知した。（時代祭については後段にも記載）



（2）大阪・関西万博に向けたオール京都の取組

大阪・関西万博を契機として京都の魅力を世界に発信し、府内各地に人や投資を呼び込むことで、経済の活性化や地域振興につなげるため、令和4年12月にオール京都体制による「大阪・関西万博きょうと基本構想検討会」が設置された。

本検討会では、府域での取組や万博会場での展示内容等に係る基本構想案が検討され、当財団は検討会の準備委員会として、京都府・京都市・一般社団法人京都知恵産業創造の森と共同で事務局を担うとともに、検討会に委員として参画した。

検討会においてとりまとめている基本構想案は、令和5年度に設置される、行政や経済界等のトップや有識者を構成員とした「大阪・関西万博推進委員会」で決定予定である。

- ・第1回検討会 令和4年12月6日（火）
- ・第2回検討会 令和5年1月25日（水）
- ・第3回検討会 令和5年3月14日（水）

（3）「花灯路」事業等の取組

関係団体と連携し、「京都花灯路」や「京の七夕」へ実行委員会の一員として参画し、民間事業者等による観光振興の支援に取り組んだ。

また、3年ぶりに開催された「時代祭行列」において、賛助会員から募集した行進者からなる隊列により、「平安建都1300年に向けて」「古典の日」「文化庁京都へ」の横断幕を行列の先頭で掲げ、PRに努めた。

3 ホームページの内容充実等

文化交流事業の紹介や各種サービスの活用を促進するため、ホームページを随時更新し、発信を行った。

IV 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

平成 24 年度から 5 年連続で大幅に賛助会員を増加させ、23 年度末の 356 件から、28 年度末には 629 件（1.8 倍）まで拡大させた。

しかし、28・29 年度でインバウンド部門を市観光協会へ移管した影響が大きく、その後、MICE を中心により一層加入促進に努めているが、微減が続いていた、

令和 4 年度は、入会メリット等を示し、積極的に勧誘を行ったところ、宿泊業を中心に、ものづくり系企業等を含め、15 の企業に 18 口入会をいただき、3 件 6 口が純増した。

昨年度に引き続き、コロナ禍の影響を鑑み、会費の納入猶予及び免除・減額を行ったが、会員が純増したこともあり、令和 4 年度末の賛助会員は、令和 3 年度末より増加し、335 件 525 口（特例の減免対象会員 25 口を含む）であった。

ア 新規加入会員（15 社 18 口）

会 員 名
ROKU KYOTO, LXR Hotels & Resorts
イビスタイル京都四条
エースプラン
バリュマネジメント株式会社(平安神宮会館)
ART MON ZEN KYOTO(有限会社茶道具なかにし)
株式会社センチュリーアンドカンパニー 西日本事業部
株式会社ジェイアール東海エージェンシー
勇進堂 勇信流刀技術京都支部
株式会社グローバルプロデュース
ワールド・ブランズ・コレクションホテルズ & リゾーツ株式会社

株式会社 SCREEN ホールディングス
アーバンホテル京都二条プレミアム
アーバンホテル京都五条プレミアム
パークホテル京都御池
株式会社 Sharing Kyoto

イ 退会会員（12社12口）

会 員 名
株式会社ジュネイ(THE JUNEI HOTEL 京都御所西)
イビスタイルズ京都ステーション(エイ・エイ・ピー・シー・ジャパン株式会社)
ハリュマネジメント株式会社(アカガネリゾート京都東山 1925)
株式会社亀田富染工場
ピーシーエム株式会社
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
Marco Kyoto design studio
株式会社新映社
ダイワロイネットホテル京都グランデ
京都サイクリングツアープロジェクト
株式会社ぐるなび
文化芸術体験CAREN株式会社

ウ 賛助会員数の推移

年度別	会員数	口数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591
令和元年度末	383	587

令和2年度末	362	536
令和3年度末	332	484
令和4年度末	335	525

(2) 「会員の集い」の開催

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として毎年開催してきたが、ここ3年間はコロナ禍で中止をしていた。今年の年末年始は3年ぶりに行動制限がなかったこと等から、「会員の集い」を令和5年1月17日に4年ぶりに開催した。久しぶりの開催に多くの方にご参集をいただき、会場の至るところで交流の輪が広がった。

※参加者数 406名

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せ、京都迎賓館での記念品の販売を実施した。

令和4年5月には清和院休憩所（京都迎賓館南側）の開所に伴い、同休憩所に記念品販売所を移転した。

この移転に際しては、新たなキャッシュレス決済を導入して利便性を向上させるとともに、新商品の開発（京都迎賓館に納品されている食器メーカー特注品の花瓶や小皿など）や商品の発注・管理体制の見直しを実施するなど、販売・管理体制の改善にも取り組んでいる。

なお、記念品販売額については、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大等に伴う一般公開の休止がなく、入館者数が増加したことを受けて、対前年比で62%増となったものの、コロナ禍前の令和元年度と比較すると、未だ2分の1程度に留まっている。

V 管理運営

1 理事会の開催

(1) 第23回理事会

- ア 日時 令和4年6月9日(木) 午前10時～11時
イ 会場 ホテルオークラ京都 「翠雲」
ウ 出席者 理事12名、監事1名
エ 議事 第1号議案 理事の選任を評議員会に諮る件
第2号議案 令和3年度事業報告に関する件
第3号議案 令和3年度決算に関する件
第4号議案 令和4年度収支予算の補正に関する件
第5号議案 「就業規程」の一部改正に関する件
第6号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第24回理事会

- ア 日時 令和5年3月8日(水) 午前11時～12時
イ 会場 ホテルオークラ京都 「暁雲」
ウ 出席者 理事11名、監事2名
エ 議事 第1号議案 令和5年度事業計画に関する件
第2号議案 令和5年度収支予算に関する件
第3号議案 令和4年度収支予算の補正に関する件
第4号議案 「電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程」の制定に関する件
第5号議案 「職員給与規程」の一部改正に関する件
第6号議案 評議員会の開催に関する件

2 評議員会の開催

(1) 第23回評議員会

- ア 日時 令和4年6月28日(火) 午後3時～4時
イ 会場 京都ブライトンホテル 「慶祥雲の間」
ウ 出席者 評議員9名、専務理事1名、監事2名
エ 議事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 理事の選任に関する件
第3号議案 令和3年度事業報告に関する件
第4号議案 令和3年度決算に関する件
第5号議案 令和4年度収支予算の補正に関する件

(2) 第24回評議員会

- ア 日 時 令和5年3月27日(月) 午後3時~4時
イ 会 場 ホテル日航プリンセス京都 「ローズ」
ウ 出席者 評議員9名、専務理事1名、監事2名
エ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 令和5年度事業計画に関する件
第3号議案 令和5年度収支予算に関する件
第4号議案 令和4年度収支予算の補正に関する件

令和4年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー